

思い出の Thanks giving

国際学部 2年 若本真子

私の FIS Family は、Terra という女性でした。旦那さんと2人の子供の四大家族でした。とても仲の良い家族で、いつも優しくしてくれました。夕飯を作って家に招待してもらったり、レストランに食べに行ったり、Halloween のイベントに行ったりと楽しく過ごすことができました。通常であれば FIS Family のもとで Thanks giving を過ごすのですが、事情があり彼らとは過ごすことができませんでした。

そのため、私は Mrs. Hardee の家で Thanks giving を過ごしました。この期間は学校の授業もなく、寮も閉まるので、私たちは FIS Family の家で6日間過ごすことになっていました。私の場合は、予定していた家ではなかったので戸惑いましたが、彼女は私たちの先生であり毎日学校で会っていたので安心しました。1日目は夕飯にスパゲティミートソースとサラダを一緒に作りました。アメリカの家庭では量が多く食べきれないというイメージでしたが、大皿に盛られたものから自分の好きな量だけ取りわけて食べる形式だったので安心しました。夕飯のあとには、一緒に Only yesterday (思い出ぼろぼろ) と Whisper of the heart (耳をすませば) を見たのが印象に残っています。これらの映画には字幕がついていなかったため、難しい表現があると Mrs. Hardee の旦那さんが解説してくれました。ジブリの映画が好きな家だったので、ジブリの話もできて楽しかったです。2日目は Mrs. Hardee と旦那さんは仕事だったので自分たちで朝食を用意し、食べました。冷蔵庫のなかにあるものや、食器などを自由に使ってよいと言われました。日本では人の家のキッチンに立つことは考えられませんが、アメリカでは当然のこのようです。3日目は旦那さんのお母さんの家で Thanks giving の料理を食べました。親戚が全員集まっているという感じで、とても大勢の人がいました。ターキーはもちろん、他にもたくさん種類のおかずやデザートを用意してくれました。ここでも自分の好きなものを取る形式でした。初めて食べるものばかりでしたが、とてもおいしかったです。4日目はショッピングに行きました。そこでは私は家族や友達のお土産を買いました。まだ11月の終り頃でしたが、クリスマスグッズがたくさん売っていて驚きました。5日目はクリスマスツリーの飾りつけと、玄関のライトアップをしました。私の身長よりも高いクリスマスツリーが出てきたので驚きました。また、アメリカでは玄関をライトアップしている家が多く、とてもきれいでした。そして昼食にはラザニアを一緒に作りました。とても簡単においしく作れたので日本でも作りたいです。そして最終日の6日目は、日曜日だったので教会に行きました。アメリカでは毎週日曜日に教会に行く習慣があるそうです。

私にとって、この Thanks giving がアメリカ留学の中の一番の思い出です。最初は不安もありましたが、まわりの人たちはいつでも親切で、いろいろなところに連れて行ってもらったり、一緒に料理をしたりと楽しい毎日を過ごすことができました。